

畜産ネットワーク ちば

2015年5月14日

第 3 3 号

発行所 公益社団法人千葉県畜産協会

〒260-0021

千葉市中央区新宿1-2-3

K & T 千葉ビル3階

発行人 森 英介

就任にあたっての挨拶



千葉県農林水産部長
小倉 明

千葉県農林水産部長を拝命いたしました小倉でございます。

会員の皆様並びに畜産関係者の皆様には、日頃から本県畜産の振興に御尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本県は全国でも有数の畜産県であり、平成25年畜産産出額は、1,094億円と、生乳で全国第5位、豚で第3位、鶏卵で第2位を占めるなど、畜産全体で第6位の地位を維持しております。

畜産を取り巻く情勢は、配合飼料等の生産資材価格の上昇、後継者不足やTPP交渉による先行き不安などの多くの課題を抱えておりますが、千葉県では、千葉県農林水産業振興計画（計画年度26～29年度）に基づき、力強い千葉県の畜産を実現するため、平成27年度は主に次の対策に取り組んでまいります。

1 家畜の生産性向上と生産基盤の強化

地域ぐるみの高収益畜産体制（畜産クラスター）

を構築し、その計画に位置付けられた中心的な畜産経営体に対して、ハード・ソフトの両面から支援します。

2 飼料自給力の強化

輸入飼料に依存した畜産経営から脱却するため、コントラクターの育成、飼料用米及び耕作放棄地の活用に対する支援を行い、輸入飼料から自給飼料主体の生産・給与構造への転換を目指します。

3 畜産物の販売促進

県産食肉の付加価値の向上のため、チバザポーク（豚肉）については、他銘柄豚肉との明確な差別化、チバザビーフ（牛肉）については、肥育技術の向上を目指します。

4 家畜排せつ物の適正管理と有効利用

家畜排せつ物法に準拠した適正管理・利用を推進するとともに、臭気低減や高度な汚水処理など新技術を活用した施設整備を促進します。

5 家畜衛生対策の強化

口蹄疫などの家畜伝染病の発生防止対策と、万一発生した場合の迅速な防疫対策の一層の強化を図ります。

以上の推進につきましては、引き続き皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、千葉県畜産協会会員及び関係者の皆様の益々の御発展を祈念申し上げまして、就任の挨拶とさせていただきます。

目 次

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ・就任にあたっての挨拶……………（1） | ・平成27年度千葉県畜産関係機関一覧表……………（6） |
| ・平成26年度第2回通常理事会開催……………（2） | ・チバザビーフ協議会報……………（8） |
| ・平成27年度畜産協会事業推進体制……………（2） | ・ちば畜産レディースネットワーク会報……………（9） |
| ・平成27年度家畜衛生対策事業の推進について……………（3） | ・NPC通信（ナイスポークチバ推進協議会）……………（10） |
| ・肉用牛肥育経営安定特別対策（新マルキン）事業……………（4） | ・平成27年度養豚経営安定対策事業（全国肉豚）……………（12） |
| ・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信……………（5） | ・新規職員紹介……………（12） |

平成26年度第2回通常理事会開催

平成27年3月16日、プラザ菜の花において、森会長出席のもと平成26年第2回通常理事会が開催され、平成27年度事業計画案及び収支予算案をはじめ全5議案が原案どおり承認されました。

東日本大震災・放射能汚染等の未曾有の大災害から4年が経過し、師走選挙を経て、世間的にはやっと落ち着きを取り戻しつつあるところです。しかしながら、畜産を取り巻く環境は、消費税率のアップ、急激な円安等も加わり、飼料や生産資材価格の高騰・高止まり状態となり、更にはPEDの蔓延など大変厳しい状況が続き、著しく畜産の経営基盤を圧迫しております。なお、「養豚農業振興法」の制定、「飼料用米や各種畜産振興施策」の推進など明るい兆しも垣間見られました。

このような状況の中、当畜産協会は畜産経営安定対策、県産畜産物の消費拡大・理解醸成の推進、飼養衛生管理・生産性の向上等に努めてまいりました。

平成27年度においても、いよいよ緊迫してまいりましたTPP交渉等の国際間貿易や口蹄疫等の海外悪性伝染病・オーエスキー病等の家畜防疫の諸問題、円レートや生産資材価格の動向等予断を許さない状況が続き、畜産業界にとって誠に厳しい環境となることが懸念されます。

当協会といたしましては、県民・消費者と畜産経営者、関係団体・行政機関等との密接な連携に努め、安全で信頼される県産畜産物が安定的に供給されますよう、より一層各種事業の推進を図ってまいります。

また、緊急課題や当協会独自事業についても積極的に取り組み、様々な場面で関係各位の信頼確保に努めてまいります。（総務課 武田）

平成27年度畜産協会事業推進体制

以下の体制で事業推進を図ります。よろしくお願いいたします。（総務課 武田）

【 理 事 会 】				【 委 員 会 】	
会長理事 森 英介		専務理事 新城 恒二		◆家畜衛生評議委員会 ◆養豚振興委員会	
副会長	理 事				
【 事 務 局 】					
部署・TEL・FAX		職 名	氏 名	主な業務の内容	
TEL:043-242-5417(代) FAX:043-238-1255		事務局長	山田 真希夫		
「総務・企画部」	TEL:043-242-5417	部長	奥住 英雄		
	[総務課] TEL:043-242-5417	課長 主任主事 主事	武田 善秀 槌屋 健太郎 長嶋 柚子	・庶務・会計に関すること ・経理処理に関すること ・新公益法人へ移行後の管理に関すること ・畜産コンサルタント等設置に関すること	
	[企画課] TEL:043-242-6333	(兼)課長 主任主事 (兼)技師 臨時職員 臨時職員	奥住 英雄 小倉 崇司 飯沼 大輝 瀧口 麻美 胡口 常代	・肥育牛経営安定対策に関すること ・生産者・流通加工者・消費者との相互理解促進に関すること ・情報の発信に関すること	
「事業部」	TEL:043-241-1738	部長	鈴木 邦夫		
	[経営・環境課] TEL:043-241-1738	(兼)課長 嘱託職員 (兼)臨時職員	奥住 英雄 薫田 耕平 石山 操	・畜産経営技術指導、支援等に関すること ・担い手育成支援に関すること ・公庫資金、貸付事業等の指導に関すること ・飼料用米等の自給飼料生産の振興に関すること ・堆肥の生産、流通等に関すること ・家畜排せつ物法に関すること	
	[衛生指導課] TEL:043-241-1738	(兼)課長 臨時職員 臨時職員	鈴木 邦夫 高橋 早苗 石山 操	・家畜の自衛防疫等の推進、指導に関すること ・死亡牛処理円滑化事業に関すること ・家畜防疫互助基金造成等に関すること ・指定獣医師に関すること	
	[生産課] TEL:043-241-3851	課長 技師 嘱託職員 臨時職員	金杉 文一 飯沼 大輝 加藤 脩三 高橋 真理	・養豚の振興等に関すること ・豚の登録、共進会等豚の改良に関すること ・肉豚の価格補償に関すること ・肉用牛の生産振興に関すること ・肉用子牛の価格の安定、生産拡大等に関すること	
【畜産団体事務局】					
★千葉県畜産物消費拡大推進協議会		★千葉県養蜂協会		★千葉県馬事畜産振興協議会	
★ナイスパークチバ推進協議会		★千葉県自家検定推進協議会			
★ちば畜産レディースネットワーク		★NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター			
★千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会		★チバザビーフ協議会		★チバザパーク協議会	

平成 27 年度家畜衛生対策事業の推進について

畜産協会では畜産農家自らが行う防疫活動に対して、市町村家畜防疫会、家畜保健衛生所及び関係機関・団体・業者の皆さんのご協力のもとに、下記補助事業等への取組み並びに各種支援事業の推進にあっております。

牛疾病対策関係では、ヨーネ病・牛白血病の清浄化、発生予防のため検査並びにとう汰の推進を図っております。また、死亡牛の検査処理については、平成 27 年 4 月から検査対象牛が 48 ヶ月齢以上となりましたので、昨年度実績に比較し 1 割程度の減で計画しております。

豚病対策関係では、引き続きオーエスキー病の清浄化を図るため、ワクチン接種の推進、抗体検査による感染豚の摘発とう汰を実施し、早期の清浄化達成を目指してまいります。

馬病関係では、昨年度と同様に各種ワクチンの接種に対し助成し、馬の自衛防疫を推進してまいります。

なお、農家へ交付される補助金は、事業終了後、事業費の確定に基づき補助単価を算定の上、支払われることになります。（事業部 鈴木）

※下表の 27 年度補助単価は補助上限額を示したもので補助交付単価ではありません。

当協会では補助上限額の交付を目指し予算確保に努めています。

《畜産農家への各種補助事業の 27 年度計画と 26 年度実績》

区 分		平成 27 年度事業計画		平成 26 年度事業実績		備 考
		補助単価 (1 頭当り)	計画頭数	実績単価 (1 頭当り)	実績頭数	
牛 病 対 策 関 係	①ヨーネ病対策	280,000 円	10 頭	—	0 頭	評価額の 2/3
	②牛白血病対策	1,618 円	1,000 頭	968 円	516 頭	検査料は 1/2
	③異常産 3 混ワクチン	128 円	10,000 頭	128 円	9,353 頭	定額
	④異常産アカバ 初ワクチン	128 円	6,000 頭	128 円	4,639 頭	定額
	⑤死亡牛処理関係 ア 輸送費 A	2,000 円	1,100 頭	2,000 円	1,276 頭	定額
	イ 輸送費 B	1,500 円	440 頭	1,500 円	489 頭	定額
	ウ 輸送費 C	2,000 円	660 頭	2,000 円	787 頭	定額
	エ 化製処理費	7,500 円	1,080 頭	7,500 円	1,251 頭	定額
豚 病 対 策 関 係	①オーエスキー病ワクチン	38 円	1,300,000 頭	38 円	1,338,800 頭	定額
	②オーエスキー病抗体検査	1,000 円	5,000 頭	1,000 円	5,498 頭	検査料は 1/2
	③オーエスキー病淘汰助成	16,000 円	472 頭	16,000 円	376 頭	定額
馬 病 関 係	(軽種馬) ①馬インフルエンザワクチン	925 円	140 頭	925 円	55 頭	1/2・1~2 歳
	②3 種混合ワクチン	1,415 円	145 頭	1,415 円	46 頭	1/2・1~2 歳
	③日本脳炎ワクチン	335 円	60 頭	335 円	26 頭	1/2・2 歳
	④馬鼻肺炎ワクチン	3,645 円	40 頭	3,645 円	6 頭	1/2・繁殖牝馬
	(乗用馬) ①馬インフルエンザワクチン	1,860 円	700 頭	1,610 円	681 頭	1/2

瞳は未来を見つめてる。



動物 未来 みつめる ひろがる



ZENOAQ

動物用医薬品 製造販売

日本全薬工業株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

URL : www.zenoaq.jp

肉用牛肥育経営安定特別対策（新マルキン）事業

1 生産者積立金単価の変更について

平成27年度の肥育牛1頭当たりの生産者積立金の額について、下記のとおり定められましたのでお知らせいたします。（ただし、3月31日までに販売された個体は旧単価が適用されます。）

生産者積立金単価

（単位：円／頭）

	27年度	(26年度比)	積立金総額	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度
肉専用種	10,000	8,000	40,000	18,000	18,000	13,000	13,000	20,000
交雑種	25,000	5,000	100,000	30,000	30,000	30,000	25,000	27,800
乳用種	17,000	3,000	68,000	20,000	20,000	30,000	18,000	15,000

2 肥育牛補填金単価について[平成26年10・11・12月販売分]

今年度も毎月払いが継続して実施されますので、販売報告の漏れがないよう願います。

肥育牛補填金単価

（単位：円／頭）

区 分	10月			11月			12月		
	肉専用種	交雑種	乳用種	肉専用種	交雑種	乳用種	肉専用種	交雑種	乳用種
粗収益 (A)	995,049	603,407	350,438	1,020,425	625,213	363,029	1,020,913	621,474	365,382
生産コスト (B)	924,631	645,193	430,743	931,638	653,016	423,701	942,607	658,556	433,926
差額 (C) = (A) - (B)	70,418	41,786	80,305	88,787	27,803	60,672	78,306	37,082	68,544
補填金単価 (C) × 0.8	-	33,400	64,200	-	22,200	48,500	-	29,600	54,800
補填金単価 (積立金免除牛)	-	25,000	48,100	-	16,600	36,300	-	22,200	41,100

100円未満切り捨て

重要な
お知らせ

新マルキン事業（肉用牛肥育経営安定特別対策事業）では
繁殖雌牛や種雄牛は対象となりませんのでご注意ください!!!



Q1 . どうして繁殖雌牛や種雄牛は対象にならないの？

新マルキン事業は、四半期ごとに肥育牛1頭当たりの平均粗収益が平均生産コストを下回った場合、その差額の8割を肥育牛補てん金として交付し、肉用牛肥育経営の安定を図る事業です。このため、肥育以外の目的に仕向けられた牛（繁殖雌牛や種雄牛）は補てんの対象とはなりません。

繁殖雌牛（搾乳牛含む）



Q2 . 繁殖雌牛や種雄牛を申し込んだ場合はどうすればいいの？

繁殖雌牛や種雄牛を誤って申し込んだことが分かった場合や、申込の後に繁殖に仕向けた場合は、速やかに本会に報告の上、「異動報告書（または削除依頼書）」を提出してください。なお、すでに納付された生産者積立金は返金できませんが、業務対象年間終了後の基金の残額の返還の対象にはなりません。

種雄牛



Q3 . 繁殖に仕向けたことを報告しなかった場合はどうなるの？

販売報告のあった牛について、牛個体識別情報や種畜検査結果を基に繁殖に仕向けられていないかを確認します。

繁殖に仕向けたことの報告がなく、繁殖に仕向けたことが確認された場合、補てん金交付契約を解除する場合があります。補てん金交付契約を解除した場合、すでに納付された生産者積立金の返金がないことに加え、業務対象年間終了後の基金の残額の返還もありません。

さらに、次の業務対象年間において、新マルキン事業等に参加できなくなる場合があります。

問合せ先

公益社団法人千葉県畜産協会 総務・企画部 企画課（担当：小倉）
TEL：043-242-6333 FAX：043-238-1255

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信

去る4月17日（金）午後1時30分から平成27年度第1回理事会が公益社団法人千葉県畜産協会会議室に於いて開催されました。はじめに松田理事長の挨拶、千葉県農林水産部畜産課島田主幹、公益社団法人千葉県畜産協会新城専務理事の来賓挨拶のあと、理事長の進行で、平成26年度事業実績報告及び27年度事業計画等について協議しました。その主な内容についてご紹介します。（事務局 黒田）

平成26年度事業概要

平成26年度は各県での鳥インフルエンザの発生（熊本県、宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県）や全国的なPEDの発生、県内でのPEDの蔓延、TPP交渉や円安による穀物等の高騰による飼料や資材費の上昇に加え少子高齢化の進展に伴い消費の停滞等畜産環境は厳しい状況にありました。国では飼養衛生管理基準の徹底等や農産品の輸出等積極的な農政を展開しています。

こうした状況の中、安全・安心・高品質な畜産物の安定供給のため、飼養衛生管理の向上強化に関する指導や6次産業化、エコフィードの資源循環システムの推進等畜産への理解増進等に努めました。

（1）農場HACCP推進指導

本指導は（公社）千葉県畜産協会からの依頼に基づき農場HACCP推進農場の指定又は認証を希望する農場へ指導員を派遣し、構築の指導・助言を実施し、県内への農場HACCP普及推進に努めました。

構築支援：
14農場（酪農1、養豚10、採卵鶏3）
認証農場の認定：養豚1農場
推進農場の指定：
養豚1農場、採卵鶏1農場
指導員派遣：
NPO指導員10名（延112回）
農場HACCP講習会への講師派遣：
NPO講師 延5名派遣 旭市（47名出席）
千葉市（40名出席）

（2）6次産業化の推進

昨年度の県農林水産政策課公募事業で、ひふみ養蜂園（株）6次産業化推進ネットワークの事業化を推進しました。



蜂の駅前にて



蜜蝋キャンドルづくりの様子

今年度は8月の蜂みつ販売展示への支援、10月の畜産フェア、2月の販売商談会への出展協力等実施してきました。

また、ひふみ養蜂園（株）は3月に6次産業化法認定を取得するとともに、加工施設・みつろう体験工房を設置し、4月「蜂の駅・ひふみ養蜂園」オープン記念式典が盛大に開催されました。

皆様も、館山にお越しの節は「蜂の駅・ひふみ養蜂園」に是非お寄りください、新しい発見があると思います。

平成27年度事業計画

今年度はNPO法人としての活動を開始してから9年目です。昨今、家畜伝染病の発生やTPP問題や円安、飼料高騰等先行きが不透明なところも多い状況にあります。

畜産振興に向けて行政・団体・業界から畜産に係る公募事業や調査研究の取組方法の検討に努めるとともに専門部会や会員に重点を置いた活動を積極的に推進します。会員の皆様の更なる積極的な参加をお待ちしております。

【平成27年度総会】

日時：平成27年5月29日（金）13時30分から
場所：千葉市生涯学習センター「メディアエッグ」
（千葉市中央区弁天3-7-7）

【平成27年第1回畜産研修会】

日時：平成27年5月29日（金）14時30分から（総会終了後）
場所：千葉市生涯学習センター「メディアエッグ」
（千葉市中央区弁天3-7-7）

演題：「千葉県畜産の行政施策」
（講師 千葉県農林水産部畜産課 課長 岡田 望 氏）

演題：「TPPと我が国の農畜産物をめぐる諸情勢について」
（講師 公益社団法人国際農林業協働協会
専務理事 三野 耕治 氏）

※畜産研修会終了後（16時30分頃）、「情報交流会」を予定していますので、是非こちらもご参加ください。

◎入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは・・・

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局
（（公社）千葉県畜産協会内）
TEL:043-242-6333 FAX:043-238-1255

正会員 80（内、団体11）
賛助会員 2（団体）

平成27年度 千葉県 畜産関係機関一覧表

農林水産部	〒260-8667 千葉市中央区市場町1－1		部署	職名	氏名	
部署・TEL	職名	氏名	病理生化学課	課長	石原 勇人	
043-222-2800	部長	小倉 明		副主幹	小川 明宏	
043-223-2801	流通販売担当部長	飯田 浩子		専門員	関口 真樹	
043-223-2803	次長	石野 利明		主任技師	綿村 崇宏	
043-223-2804	次長	中野 裕三郎		主任技師	島田 圭悟	
畜産課	〒260-8667 千葉市中央区市場町1－1 FAX:043-222-3098		細菌ウイルス課	課長	市沢 三香	
部署・TEL	職名	氏名		副主幹	松本 敦子	
043-223-2931	課長	岡田 望		専門員	大坪 岳彦	
043-223-2929	副課長	陣野 正美		専門員	福井 聡子	
043-223-2930	副課長	富田 耕太郎		主任技師	関根 大介	
企画経営室 043-223-2926 043-223-2927 043-223-2777 043-223-2921	主幹兼室長	川村 治朗		技師	佐藤 隆裕	
	主幹	島田 純		技師	岡本 みさき	
	副主幹	児安 良子	技師	畑中 ちひろ		
	副主幹	江森 美香	東部家畜 保健衛生所			
	主査	森原 宏史	〒283-0064 東金市川場1105－3 TEL:0475-52-4101 FAX:0475-52-3335			
	主査	櫻井 紀夫	部署	職名	氏名	
	副主査	倉地 充	所長	笠井 貞義		
	副主査	藤川 英一郎	次長	片山 雅一		
生産振興班 043-223-2939	技師	阿部 敬	主幹	井出 基雄		
	班長	大澤 浩司	衛生指導課	課長	道本 昌信	
	副主幹	嶋村 和彦		副主幹	田村 容子	
	副主査	野村 俊介		副主幹	原 康弘	
	副主査	大河原 澄香		副主幹	坂元 依子	
技師	羽深 真里	専門員		平野 亨		
環境飼料班 043-223-2943 043-223-2944	班長	市原 裕二	専門員	中代 浩之		
	主査	鎌田 望	技師	小形 次人		
	副主査	松本 友紀子	防疫課	課長事務取扱	片山 雅一	
	副主査	田仲 景士郎		上席専門員	笠井 史子	
	技師	井上 愛		上席専門員	猪俣 一陽	
家畜衛生対策室 043-223-2923 043-223-2938 BSE対策本部 043-223-3084	副技監兼室長	風間 達也		専門員	西川 潤	
	主幹	渡辺 和彦		技師	小高 宏貴	
	副主幹	藤野 晴彦	技師	不破 友介		
	副主査	吉田 喜一郎	南部家畜 保健衛生所			
	副主査	塚原 涼子	〒296-0033 鴨川市八色52 TEL:04-7092-2304 FAX:04-7092-1434			
担い手支援課	〒260-8667 千葉市中央区市場町1－1 FAX:043-201-2615		部署	職名	氏名	
	部署・TEL	職名	氏名	所長	山田 美代子	
043-223-2900	課長	越川 浩樹	次長	芦澤 尚義		
農業経営支援班 043-223-3087	班長	市原 重信	衛生指導課	課長	原 普	
	主査	高橋 京子		副主幹	柴田 祥子	
専門普及指導室 043-223-2912	副技監(兼)室長	神保 信幸		副主幹	齊藤 満	
	主席普及指導員	蕨 順一		上席専門員	千葉 耕司	
	主任上席普及指導員	向後 弥生		上席専門員	小泉 慎一郎	
	主任上席普及指導員	大塚 洋功		技師	松原 芳絵	
中央家畜 保健衛生所	〒262-0011 千葉市花見川区三角町656 TEL:043-250-4141 FAX:043-236-0090			防疫課	課長	江森 格
	部署・TEL	職名	氏名		上席専門員	平島 淳
庶務課	所長	高橋 岩雄	技師		土肥 世生	
	次長	林 治実	技師		矢嶋 真二	
	主幹	青木 ふき乃	技師		杉本 卓翔	
衛生指導課	課長	大畑 清	衛生指導課	課長	畑野 克巳	
	主査	寺田 賢二		副主幹	稲毛 幹雄	
	課長	篠原 栄里子		専門員	関野 友里華	
	上席専門員	相田 洋介		主任技師	今関 智恵	
技師	上林 佐智子	技師		関谷 圭美		
防疫課	技師	佐多 美香		技師	山桐 慶之	
	課長事務取扱	林 治実		技師	鈴木 良平	
	副主幹	小島 洋一				
	専門員	倉地 舞				
〒285-0072 佐倉市岩富町497 TEL:043-498-1431 FAX:043-498-1475			防疫課	主幹	小島 洋一	
次長	陰山 潔			専門員	倉地 舞	
				技師	小山 祐介	
				技師	小山 祐介	

畜産総合 研究センター	〒289-1113 八街市八街へ16-1 TEL:043-445-4511 FAX:043-445-5447		部署	職名	氏名
部署	職名	氏名	養豚養鶏 研究室	主席研究員	福島 達哉
センター長	次長	松木 英明		研究員	伊藤 香葉
	次長	上村 順一		研究員	細野 真司
	次長	檜山 学		研究員	吉敷 芙友子
総務課	課長事務取扱	上村 順一		研究員	松本 千明
	副主幹	佐原 徳之		研究員	岡田 浩子
	主査	井濱 健太郎	畜産総合研究センター 市原乳牛研究所		
	主査	今関 博子	〒290-0531 市原市国本602		
	主事	平山 和章	部署	職名	氏名
企画環境 研究室	室長	細谷 肇	TEL:0436-96-1231 FAX:0436-96-0956	所長	小野寺 道寛
	主席研究員	杉本 清美		主幹	小林 正和
	主席研究員	鈴木 一好		主任上席研究員	斉藤 公一
	主任上席研究員	斉藤 健一		主任上席研究員	永福 和明
	上席研究員	丸山 朝子		主任上席研究員	渡邊 晴生
	上席研究員	青木 大輔		研究員	進藤 彰
	研究員	長谷川 輝明		研究員	加藤 久美子
	研究員	名取 美貴	畜産総合研究センター 嶺岡乳牛研究所		
	研究員	八木 健	〒299-2507 南房総市大井686		
乳牛肉牛 研究室	室長	川嶋 賢二	部署	職名	氏名
	主席研究員	山口 倫子	TEL:0470-46-3011 FAX:0470-46-3012	所長	村田 宏之
	主席研究員	石崎 重信		主幹	山下 秀幸
	研究員	村中 洋美		主査	柴田 由子
	研究員	福井 陽士		主任上席研究員	平尾 明
	研究員	村田 美里		研究員	小林 大誠
	研究員	山崎 藍子		研究員	行川 貴浩
	研究員	諸岡 佳恵		研究員	清水 貴文
養豚養鶏 研究室	室長	高橋 圭二			

農業事務所名	課名	所在地	職名	氏名	TEL	FAX		
千葉農業事務所	企画振興課	〒266-0014 千葉市緑区大金沢町473-2	副主幹	柴田 るり子	043-300-1985	043-293-3916		
	主査		大畑 絵美					
	改良普及課		普及指導員	野中 太輔	043-300-0950	043-293-2710		
			普及指導員	藤井 雄樹				
東葛飾農業事務所	企画振興課	〒277-0861 柏市高田990-1	技師	岩間 亮祐	04-7143-4122	04-7144-8260		
	改良普及課	〒277-0005 柏市柏255-1	普及指導員	湯原 千秋	04-7162-6151	04-7162-6154		
印旛農業事務所	企画振興課	〒285-0026 佐倉市錦木仲田町8-1	副主幹	杉本 裕	043-483-1129	043-485-9502		
	技師		渡邊 世奈					
	改良普及課		GL・主任上席普及指導員	宮本 光浩	043-483-1128	043-485-9502		
			主任上席普及指導員	五十嵐 福男				
香取農業事務所	企画振興課	〒287-0005 香取市佐原木1250-3	技師	本多 正隆	0478-52-9192	0478-54-5617		
	技師		上田 俊平					
	改良普及課	〒287-0005 香取市佐原木1250-2	GL・主任上席普及指導員	平野 和則	0478-52-9195	0478-55-1703		
			普及指導員	岸田 雅弘				
海匠農業事務所	企画振興課	〒289-2504 旭市二1997-1	普及技術員	溝井 つかさ	0479-62-0156	0479-64-2502		
	副主幹		八木 由紀夫					
	改良普及課		副主幹	古屋 聡子	0479-62-0334	0479-62-4482		
			上席普及指導員	丸山 武則				
山武農業事務所	企画振興課	〒283-0006 東金市東新宿1-11	普及指導員	有路 優子	0475-54-1122	0475-55-8614		
	副主幹		安川 葉子					
	改良普及課		副主査	沼尾 真人	0475-54-0226	0475-52-7914		
			技師	中山 妙子				
長生農業事務所	企画振興課	〒297-0026 茂原市茂原1102-1	主任上席普及指導員	仲田 義弘	0475-22-1751	0475-26-2234		
	改良普及課		普及指導員	佐野 実乃里			0475-22-1771	0475-25-2061
			技師	吉田 早希				
夷隅農業事務所	企画振興課	〒298-0293 夷隅郡大多喜町猿稻14	主任上席普及指導員	伊藤 郁子	0470-82-4956	0470-82-5348		
	改良普及課		瀧口 由貴	0470-82-2213	0470-82-3975			
安房農業事務所	企画振興課	〒294-0045 館山市北条402-1	小池 広明	0470-82-2213	0470-22-7131	0470-22-0097		
	主査		渡辺 聡					
	改良普及課		主査	田中 なほ子	0470-22-8132	0470-22-0097		
			主任上席普及指導員	金子 貴一				
君津農業事務所	企画振興課	〒292-0833 木更津市貝渕3-13-34	普及指導員	吉田 明広	0438-25-0107	0438-23-6698		
	普及指導員		中原 祐樹					
	改良普及課		普及技術員	小林 夏奈子	0438-23-0299	0438-23-6698		
			普及技術員	青木 優作				



チバザビーフ協議会報

チバザビーフ協議会は千葉県産の「うまい牛肉」のPR活動を行っています。



第4回チバザビーフ枝肉共励会及びその前夜祭の開催結果について

平成27年2月23～24日にかけて第4回チバザビーフ枝肉共励会及び前夜祭が開催されました。

〈前夜祭〉

日時：平成27年2月23日（月）17時30分～20時

場所：第一ホテル東京シーフォート3階「ハーバーサーカス」



チバザビーフ協議会 山崎会長

出席者数：124名

（千葉県・県議連盟等関係者及び食肉関係者、生産者、報道機関等）

主催者あいさつ：チバザビーフ協議会 会長 山崎巖

来賓ご祝辞：千葉県畜産協会 会長 森英介

千葉県議会自民党畜産振興議員連盟 副会長 石毛 之行

千葉県農林水産部 流通販売担当部長 小倉明

東京食肉市場株式会社 取締役社長 小川 一夫

最高額買参人へのお礼紹介：（株）鎌倉ハム村井商会

おもてなし牛肉：北総和牛（サーロイン）【サイコロステーキ】

ナイスビーフ（サーロイン）【ローストビーフ】

応援ステージ：ベリーダンス（セクシーな女性による豊穡を願う踊り）

映画「ちばものがたり」主題歌（歌い手 ゆきお）



千葉県畜産協会 森会長



最高買参人ヘトロフィーの贈呈



北総和牛のステーキ



ナイスビーフのローストビーフ



ベリーダンスチームによるステージ

〈枝肉共励会〉

日時：平成27年2月24日（火）8時～12時

場所：東京都中央卸売市場食肉市場（審査講評・褒賞授与式は東京食肉市場センタービル8階会議室）

出品頭数：60頭（黒毛和種 34頭 交雑種 26頭）

入賞者：

	最優秀賞	優秀賞1席	優秀賞2席	優良賞1席	優良賞2席
和牛の部	宮澤 武志 （旭市）	島田 昭 （富津市）	戸村 佳資 （成田市）	（農）宮澤農産 （旭市）	実川 治徳 （旭市）
交雑の部	齋藤 茂樹 （佐倉市）	塙 正一 （銚子市）	宇井 憲司 （匝瑳市）	郡司 和昭 （横芝光町）	岩渕 拓也 （旭市）

事務局

公益社団法人千葉県畜産協会 総務・企画部 企画課（担当：小倉）

TEL:043-242-6333 FAX:043-238-1255

わたしたち森久保薬品は
人と動物の「これから」を真剣に考えています。

 **森久保薬品株式会社**
<http://www.morikubo.co.jp>





活動記録

◇役員会の開催

日 時	場 所	参加者数	内 容
平成 27 年 2 月 18 日 (水) 午前 10 時 30 分～午後 1 時	畜産協会 会議室	役員等 10 名	・ 26 年度活動状況、27 年度活動予定等について協議
平成 27 年 4 月 14 日 (火) 午前 10 時 30 分～午後 1 時	畜産協会 会議室	役員等 11 名	・ 27 年度総会等について協議

活動予定

◇平成 27 年度総会・情報交換会の開催

平成 27 年度の総会等を次のとおり予定しております。皆様のご参会を心よりお待ちしております。

日 時	平成 27 年 5 月 20 日 (水)
会 場	合同会社エストレホテル東金 〒283-0801 千葉県東金市八坂台 1-8 TEL: 0474-55-1111 FAX: 0475-55-1112
内 容	1) 総会 《11:00～11:50》 2) 薔薇の宴 《12:00～13:30》 薔薇の咲きほころぶ季節の宴 (お 1 人 3,000 円) 3) 情報交換会等 《13:40～15:00》



(昨年の総会&情報交換会記念撮影)



(昨年の向日葵の宴料理)

◇平成 27 年度農山漁村いきいき研修会等への参加

主 催	日 時	会 場
千葉県農山漁村女性団体ネットワーク	平成 27 年 7 月 16 日 (木) 午前 9 時 45 分～	千葉県教育会館大ホール

上記研修会終了後「農業者活動交換大会」の開催が予定されています。引き続き参加をお願いいたします。

(事務局 長嶋)

会員だより

『縁いろいろ』

富里市 佐々木 佳代 (養豚)



佐々木農場は、成田空港に隣接する富里市で母豚を 280 頭ほど飼育している一貫経営の養豚場です。

高度成長期の真っ只中に東京で生まれ、その後千葉県に移り住んでからも豚とは全く縁がなく、「生物学が好き」という理由で畜産系の大学に進学したものの、「綿羊の低マグネシウム血症の影響」という研究に、「日本で役に立つのかしら？」

と思いながら夢中になって、学生時代を東北で過ごしました。卒業したら、千葉に帰って農業に関係ある仕事をしたいと思い、「千葉」と「農業」の 2 つの単語が入っているというだけの理由で、千葉県経済農業協同組合連合会 (千葉県経済連)、現在の全農千葉県本部に就職しました。

世の中はバブル最盛期で、どこの企業も「面接、即内定」という勢いでしたが、そんな不純な動機で採用された私は、新人の中でただ 1 人「農業とは縁のない人」でした。でも、学生時代に近所の養豚場でアルバイトをしたことがあったり、経済連でも畜産課に配属されたり、もしかしたら豚と縁があったのかもしれません。

それを証明するかのように、上司の紹介で佐々木農場に嫁ぎ、豚舎デビューして 15 年になりますが、最初の 6 年間、お姑さんと一緒に仕事をしたことが大きな支えになっていて、不器用であまり戦力にならないけど、毎日楽しいです。

種豚と肉豚の両方を生産していますが、地元 JA の産直センターに販売を委託している房総ポークの精肉が、「価格よりもおいしくて安全な食材」を求める消費者の趣向に合っているのか、口コミで販売先が増えてきています。「いつかは、ミートショップ兼レストラン」という展望もありますが、家族経営で人手に余裕がないため、今はいろんなジャンルの「佐々木農場の豚肉食べられるお店」から注文を受け、調理・提供してもらっています。

畜産レディースの皆さんは、好奇心が旺盛で、新しいことへのチャレンジ精神が素晴らしいです。

これからも、活動に参加させていただき、参考にしていきたいと思っています。



1 差額関税制度の堅持と厳格運用を求め要請



平成27年3月16日（月）に公益社団法人千葉県畜産協会会長・森 英介衆議院議員へ要望書を提出した。

最近の新聞報道によると、日米交渉では豚肉の差額関税制度において、従量税部分は現行の482円を徐々に下げて最終的には50円に、従価税部分の4.3%を最終的に0%とすると報じられている。

我々養豚生産者は、重要品目として豚肉が国会決議されたことを踏まえ、TPP交渉において差額関税制度は守り、分岐点価格の524円/kgは、いじらない（下げない）と理解している。

このような情報がどこから出てきたのか、根拠の出所が分からないものの、もしこの報道が正しいとすれば、この制度は有名無実と化し、機能しなくなることは明らかであることから現行の差額関税制度の数値の堅持と厳格運用をお願いした。

また、3月29日（日）銚子市内銚子プラザホテルにおいて、地元国会議員 林 幹雄衆議院議員へも同様の内容で要請した。



2 飼料用米等の生産拡大が閣議決定されました！！



農業者の方々が安心して飼料用米の生産に取り組んでいただけるよう、新たな食料・農業・農村基本計画（平成27年3月31日閣議決定）において、飼料用米等の生産拡大を位置づけ（平成37年の生産努力目標110万トン）、その確実な達成に向けて、水田活用の直接支払交付金など必要な支援を行うこととしています。

これを踏まえ4月15日（水）～16日（木）農水省において「飼料米生産・利用拡大シンポジウム」が開催された。

出席された林農林水産大臣から「わが国においては、主食米の需要が毎年8万トずつ減少している。飼料米、加工用米の利用が必要であり飼料原料の国産化、飼料自給率の向上により水田農業を発展させる。万が一に国民の食料に繋がる。10年後の目標は110万ト（現在の10倍）を目指し、財政負担・支援策の対応と課題について前向きに進めていきたい。生産、利用拡大に協力をお願いしたい。」と挨拶。またTPP問題にも触れ、衆参の決議を評価できる形で決着を進めていきたいと述べた。

3 国産豚肉生産力の危機・養豚農業を守る交渉を求め・TPP緊急街頭キャンペーン実施



一般社団法人日本養豚協会（JPPA）は、4月19日（日）東京・有楽町駅においてTPP緊急街頭キャンペーンとして、食と農業の循環を訴えた特製チラシとポケットティッシュ、料理本など合計8,000枚を通行人に配布し、国益に叶う養豚産業の重要性と国産豚肉の消費拡大を訴えました。

最近の新聞報道による、日米交渉では豚肉の差額関税制度について従量税部分を現行の482円を徐々に下げて最終的には50円に、従価税部分4.3%を最終的に0%とするとの報道に、危機感を感じ、日米首脳会談を控える中でTPP交渉の急な進展を警戒したJPPA青年部会が中心となり執行部と連携しての実施となりました。

北海道から宮崎県までの会員、事務局総勢41名（NPC12名）が参加したほか、着ぐるみ4体（千葉県2体、神奈川県1体、宮崎県1体）も参加し、通行人の関心を高める効果を生み、多くのメディアの取材と大きなインパクトを与えることができました。



**国産豚肉生産力の危機
養豚農業を守るTPP交渉を強く求める！！**

4 QVCマリンフィールド in ナイスパーク 2015 開催・ゴールデンウィークでの出店復活



5月2日、初夏を感じさせる好天の球場、マリーンズ主催試合における市町村・地域特産PR「千葉、心つなげようテント」企画に参加した。

ゴールデンウィーク期間のイベント参加は3年ぶりである。ここ2年、シリーズ終盤の9月の出展であったが、以前からゴールデンウィークでの参加を切望してきました。

今回イースタンリーグ（5月17日）への出展条件で開催が決定し、開催迄2週間と限られた期間での参

加者、準備でありましたが、当日生産者、関係者81名が参加し、焼肉販売（100kg）アンケート・クイズでロース1kg80本、ぬいぐるみ、Tシャツを賞品としてガラポンでの抽選に多くの来場者が列を作った。

養豚に関する情報提供では特に飼料米の生産利用により、養豚が国益に叶う産業であることなどアピール。

また、東京有楽町での緊急キャンペーン千葉版として、「養豚農業・豚肉食べて応援」としてパンフレット、ティッシュ2,000個を来場者に配布し県産・国産豚肉を「食べて応援」をお願いした。

なお、焼肉販売に際し、今回ネパール大震災への義援金を募り19,495円と多くの支援を頂きました。豚肉売上金の一部を加えて募金したいと思います。



5 平成27年度県人事異動に伴う関連部署へ挨拶

平成27年度定期人事異動に伴い、日頃ご指導を頂いております関連部署を訪問しました。

平野 拓歩会長以下三役・顧問・事務局計6名で対応した。



農林部長室の訪問では丁度レクチャーの最中ではありましたが、快く対応をしていただきました。

今回の異動で課長が変わった農林水産政策課、担い手支援課、生産振興課、及び畜産課にそれぞれ、協議会に対する今後の指導をお願いした。

畜産課では、課長以下担当官と次のような内容で意見交換を図った。

- (1) 現場におけるPEDの発生状況について
- (2) TPP交渉の行方と最新情報について
- (3) 会員制度10周年を迎えたNPCサポーターについて
- (4) 養豚経営安定対策事業における無事戻しの対応について
- (5) その他



事務局

公益社団法人千葉県畜産協会 事業部（担当：加藤）
TEL: 043 - 241 - 3851 FAX: 043 - 238 - 1255

平成27年度養豚経営安定対策事業（全国肉豚）

養豚経営の安定を図るため、粗収益が生産コストを下回った場合に、生産者と国の積立金から差額の8割を補填します。粗収益と生産コストは四半期終了時に計算されます。

当該四半期に発動がなかった場合は、次の四半期に通算して計算されます。

補てん金交付の早期化のため、希望者に対する概算払いが可能です。

事業実施期間（27～29年度）終了後、生産者負担金に差額が生じた場合、無事戻しがあります。

事業の内容

積立割合 生産者：国＝1：1

補填割合 粗収益と生産コストとの差額分の8割

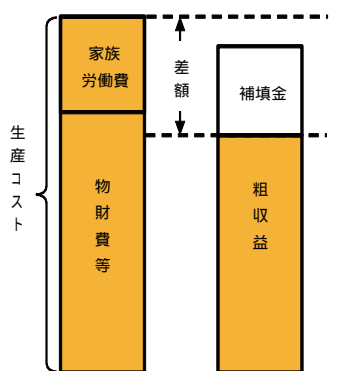
対象者 養豚経営者（耕畜連携、エコフィードの活用等の取組に努めようとする者） **大企業は除きます。**

事業実施期間

平成27～29年度（3年間）

1頭当たり積立金

27年度 1,400円/頭（うち生産者負担金700円/頭）



平成27年度肉豚生産安定対策事業（県補助）

養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産を確保するため、養豚経営安定対策事業における生産者積立金の一部を助成します。

平成27年度予算は76,000,000円（1頭あたり70円の補助）を予定しております。

平成26年度養豚経営安定対策事業の無事戻し

本事業については、事業の見直しにより、26年度で一旦終了することとなり、養豚経営安定基金については、事業終了時の基金残額を拠出者へ返還（無事戻し）することとなりました。

拠出者別の無事戻し額は、「年度毎の基金残額×年度毎の拠出割合」により按分されます。6月に基金の閉鎖、8月上旬に無事戻し金（返還額）の通知、8月下旬に振込予定です。（生産課 金杉）

- 新規職員紹介 -

◇事業部 部長 鈴木邦夫◇

今年4月から畜産協会にお世話になっております鈴木と申します。

これまでは県職員として勤務し、畜産総合研究センターを最後に3月末で退職いたしました。在職中は皆様方に大変お世話になりました。

引き続き畜産関係業務に従事させていただき、畜産協会では家畜衛生対策事業等を担当させていただいております。畜産を取り巻く情勢は、非常に厳しい状況にあると思いますが、各種協会事業を通じ、家畜保健衛生所、畜産関係団体等連携しながら、畜産振興に寄与していきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いいたします。

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています。

「食の安全・安心」のための第1歩は、「法令遵守」であることを改めて認識してください。

部 署		T E L	F A X
総務・企画部	総 務 課	043-242-5417 (代)	043-238-1255
	企 画 課	043-242-6333	
事 業 部	経営・環境課	043-241-1738	
	衛生指導課	043-241-1738	
	生 産 課	043-241-3851	
Eメール：info@chiba.lin.gr.jp		URL http://chiba.lin.gr.jp	